

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	国語・現代の国語	単位数	2単位
使用教科書 〃 副教材	高等学校 新編現代の国語（第一学習社） 書きたくなるアシスト常用漢字（数研出版） デジタル版 カラー版新国語便覧（第一学習社）	対象学年 学科・組	1年 農業科・5組

科目の概要と 目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
--------------	---

学習項目・内容 (単元・章・節など)	到達度目標
《オリエンテーション》	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方および評価の観点を理解する。 ・読書の意義や効用について理解する。
【文章の構成を捉える】 「『未知』はいくらでもある」 「ナマケモノになる」	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された筆者の捉え方を理解し、自分の体験に照らして考えを深める。 ・段落と段落の関係を押さえ、本文の構成を捉える。
【論理とは何か】 「言葉としてのピクトグラム」	<ul style="list-style-type: none"> ・言語表現の多様性について考えを深める。 ・写真を伴う文章を読み、解釈したことをまとめて発表する。
【論理を捉える】 「言葉の海のオノマトペ」	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解する。
【何を伝えるか】 「十六歳のとき」 「臆病な詩人、街へ出る」	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。
【文章を読み比べる】 ・法律改正に関わる文章を読み比べる	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる形式で書かれた複数の文章を読み理解したことをまとめる。 ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめる。
【聞いて整理する】 「『弱いロボット』の誕生」	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・動画と本文を比較し、わかったことを他者に説明する。
【要旨を把握する】 「人はなぜ仕事をするのか」 「イースター島になぜ森がないのか」	<ul style="list-style-type: none"> ・本文で使われている「パス」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の本質について考察する。 ・筆者の仕事観について読み取り、自分の意見や考えを論述する。
【スピーチをする】 ・話し方の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解する。 ・積極的に伝わりやすい表現を考え、学習課題に沿って説明や発表を行う。

年間指導計画

教科・科目	国語・言語文化		単位数	2単位
使用教科書	高等学校 新編 言語文化（第一学習社）		対象学年 学科・組	1年 農業科・5組
使用副教材	新編言語文化 学習課題集（第一学習社） 古典常識も学べる 新明説総合古典文法ノート 必携 新明説漢文ノート			
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語（古典）の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力や伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めることができるようにする。 			
単元	学習内容	到達度目標		
【古文入門】		<ul style="list-style-type: none"> ・古典の学習の仕方を理解する。 ・わが国の伝統文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 		
【古文に親しむ】	「児のそら寝」 「なよ竹のかぐや姫」他	<ul style="list-style-type: none"> ・古文特有の仮名遣いと言葉に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや、人間描写の巧みさを知る。 ・現代まで受け継がれる物語の読み取りを通して、古文の世界への親しみを深める。 		
【物語を楽しむ】	「伊勢物語」	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌を含む物語の読み取りを通して、古文への興味・関心を広げる。 		
【詩の楽しみ】	「I was born」	<ul style="list-style-type: none"> ・現代詩の鑑賞の仕方を理解し、作品に込められた世界への思いを読み取る。 		
【随筆を読む】	「徒然草」「方丈記」「枕草子」	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の人々の生活感覚を反映した文章を読んで、古文に表れたものの見方・考え方の一端に触れる。 		
【和歌と俳諧】	「万葉集」「古今和歌集」 「奥の細道」他	<ul style="list-style-type: none"> ・調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞の仕方を理解する。 ・俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。 		
【短歌と俳句】		<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞の仕方を理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方・感じ方を豊かにしようとしている。 		
【漢文入門】		<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・漢文の訓読について、基礎的な知識を身につける。 		
【故事成語】	「五十歩百歩」「矛盾」他	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 		
【小説を読む】	「よだかの星」	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に含まれる寓意を理解し、主人公の置かれた状況から生じる心理や行動をもとに人間の生き方を考える。 		
【漢詩の鑑賞】	「唐詩の世界」	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々がどのような思いを詩に表したかを読み取る。 		

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	公民・ 公共	単位数	2単位
使用教科書 副教材	高等学校 新公共（第一学習社） 高等学校 公共ノート（第一学習社）	対象学年 学科・組	2年 農業科

科目の概要 と目標	<p>1 地域的特色と、日本及び世界との関わりを理解するとともに、調査や情報を効果的にまとめる技能を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>2 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動に取り組むことのできる生徒を育成する。</p> <p>3 多面的、多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする生徒の態度を養う。</p>
--------------	---

単元	学習内容	到達度目標
第1章 公共的な空間をつくる私たち I-①社会に生きる私たち I-②個人の尊厳と自主・自律 I-③多様性と共通性 I-④キャリア形成と自己実現 II-①伝統や文化とのかかわ	・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。	・公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。 ・公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを学ぶ。 ・伝統や文化と、自らの行動様式や考え方との関係について理解する。
第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 I-①人間と社会のあり方についての見方・考え方 I-②実社会の事例から考える～環境保護 I-③実社会の事例から考える～生命倫理 II-①公共的な空間を形成するための考え方 II-②よりよく生きる行為者として活動するために	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。
第3章 公共的な空間における基本的原理 I-①人間の尊厳と平等 I-②個人の尊重 I-③民主政治の基本的原理 I-④法の支配 I-⑤自由・権利と責任・義務 II-①世界のおもな政治体制 II-②日本国憲法に生きる基本的原理	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	・人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解する。 ・法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 ・安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。

年間指導計画（書式）

教科・科目	数学・数学 I	単位数	3 単位
使用教科書	新 高校の数学 I (数研出版)	対象学年 学科・組	1 年 農業科・5 組
使用副教材	改訂版 ポイントノート 数学 I (数研出版)		
科目の概要と目標	方程式と不等式および 2 次関数について、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		
単元	学習内容	到達度目標	
1 章 数と式	1 節 数と式の計算 ①計算の基本 ②単項式と多項式 ③多項式の加法と減法 ④多項式の乗法 ⑤展開の公式 ⑥因数分解 ⑦展開，因数分解の工夫 ⑧根号を含む式の計算 ⑨実数 2 節 1 次不等式 ① 1 次方程式 ②不等式 ③不等式の解	<ul style="list-style-type: none"> ・中学の復習をしながら、方程式の意味や解法について学ぶ。 ・因数分解を利用して 2 次方程式を解くことができるようになる。 ・平方根の考えに基づいて 2 次方程式を解くことができるようになる。 ・2 次方程式の解の公式を導く過程を考え、その公式を利用して 2 次方程式を解くことができるようになる。 ・2 次方程式を利用して、応用問題が解けるようになる。 ・身近な例を使って不等式をつくり、不等式の意味や不等式の解の意味を理解する。 ・不等式をみたす x の値の範囲を数直線上に図示できるようになる。 ・不等式の性質を学び、1 次方程式の解法と対比しながら、1 次不等式を解くことができるようになる。 ・連立不等式の意味を理解し、その解を求められるようになる。 	
2 章 2 次関数	1 節 2 次関数のグラフ ①関数 ② 1 次関数のグラフ ③ 2 次関数のグラフ (1) ④ 2 次関数のグラフ (2) 2 節 2 次関数の値の変化 ① 2 次関数の最大値，最小値 ②グラフと 2 次方程式 ③グラフと 2 次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念、関数の値やそのグラフについて理解する。 ・2 次関数の特徴を捉え、2 次関数のグラフを描くことができるようになる。 ・定義域に注意して、2 次関数の最大・最小を求めることができる。 ・与えられた条件から、2 次関数を決定することができる。 ・中学の復習をしながら、方程式の意味や解法について学ぶ。 ・因数分解を利用して 2 次方程式を解くことができるようになる。 ・平方根の考えに基づいて 2 次方程式を解くことができるようになる。 ・解の公式を利用して 2 次方程式を解くことができるようになる。 ・2 次方程式を利用して、応用問題が解けるようになる。 ・グラフを利用して、不等式が解けるようになる。 	
3 章 図形と計量	1 節 三角比 ①直角三角形 ②三角比 ③三角比の利用 ④三角比の相互関係 ⑤鈍角の三角比 2 節 三角形への応用 ①正弦定理 ②余弦定理 ③三角形の面積	<ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の三角比について学び、活用できるようになる。 ・三つの辺と三つの角の正弦の関係を学び、活用できるようになる。 ・二辺とその間の角の余弦を用いて、三角形の他の一辺の長さを求めることができるようになる。 ・二辺とその間の角の正弦を用いて、三角形の面積を求めることができるようになる。 ・三角比と空間図形を関連させて、高さや距離を求められるようになる。 ・座標や単位円を用いることによって、三角比を 0° から 180° まで拡張できることを理解し、鈍角の三角比の値が求められるようになる。 	
4 章 集合と命題	①集合 ②命題と集合 ③必要条件と十分条件	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の包含関係、共通部分と和集合、空集合、補集合、ド・モルガンの法則を理解する。 ・集合に関する記号の意味を理解し、適切に使うことができる。 ・命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件の用語の定義を学び、さらに、図表示による包含関係と関連づけて理解する。 ・命題の逆・裏・対偶を理解する。また、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を習得するとともに論理的な思考力を養う。 	
5 章 データの分析	①データの整理 ②データの代表値 ③データの散らばり ④データの相関 ⑤仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布、ヒストグラムの意味を理解する。また、それらを作成し、目的に応じて資料を整理できるようになる。 ・各代表値の意味を理解し、それぞれの特徴を踏まえ、データの傾向を的確にとらえることができるようになる。 ・複数のデータを比較するために、四分位数や箱ひげ図の意味を理解し、描くことができるようになる。 ・2 つの変量間の関係を表す散布図の意味を理解し、それをもとに相関関係を考えることができるようになる。 ・相関関係の度合いを数的に表す相関係数の意味を理解し、相関係数を計算できるようになる。 ・仮説検定の考え方を理解し、簡単な事象について、仮説検定を行うことができるようになる。 	

教科・科目	理科・科学と人間生活		単位数	2 単位
使用教科書	高等学校 科学と人間生活(第一学習社)		対象学年 学科・組	1 年 農業科・5 組
使用副教材	ネオパルノート科学と人間生活(第一学習社)			
科目の概要 と目標	<p>・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p> <p>・科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。</p> <p>・身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。</p> <p>・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p>			
単元	学習内容	到達度目標		
序章		<p>・科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にしてきたことに貢献し、社会の変化に影響を与えてきたことを、身近な科学技術の例から理解している。</p>		
第 I 章 物質の科学	第 1 節 衣料と食品	<p>・日常生活にみられる身近な物質の素材となる材料の種類、性質、および用途について理解する。</p>		
		(1) 身近な繊維の分類とその利用法について概ね理解している。		
		(2) 繊維の構造とその染色について、理由と合わせて理解している。		
		(3) 天然繊維の分類について、特徴と合わせて理解している。		
		(4) 化学繊維の分類について、特徴と合わせて理解している。		
		(5) 食品中の主な栄養素について、栄養素が取り込まれる過程と合わせて理解している。		
		(6) 炭水化物について、単糖と二糖の違いを特徴と合わせて理解している。		
		(7) 炭水化物の多糖類について、特徴と働きを理解している。		
		(8) タンパク質について、その構造と性質、働きについて理解している。		
		(9) 脂質に関して、構造と働きを理解し、石鹸について科学的に理解できる。		
(10) 無機質とビタミンについて、主要な物質とその働きを理解している。				
第 II 章 生命の科学	第 2 節 微生物とその利用	<p>・多様な微生物と生態系ではたらき、微生物と人間生活とのかかわりについて理解する。</p>		
		(1) 身の回りの微生物について、その分類と特徴を理解している。		
		(2) 微生物、病原体、ウイルスについて発見の歴史を理解している。		
		(3) 森林生態系内の微生物について、炭素の循環と合わせてその働きを理解している。		
		(4) 窒素の循環とその循環にかかわる微生物を理解している。		
		(5) 微生物の利用に関して、発酵の歴史を理解している。		
		(6) 発酵食品のうち、酒類と味噌、醤油に関して理解を深める。		
		(7) 発酵食品のうち、乳製品とうまみ成分に関して理解を深める。		
		(8) 医薬品と微生物に関して、抗生物質とワクチンの歴史と働きを理解している。		
		(9) 微生物の利用に関して、エネルギー資源の生産と環境浄化、バイオテクノロジーについて理解している。		
第 III 章 熱や光の科学	第 1 節 熱の性質とその利用	<p>・熱の性質やエネルギーの変換と保存、有効利用について理解する。</p>		
		(1) セルシウス温度や絶対温度について理解し、熱運動についての知識を身につけている。		
		(2) 熱平衡の現象と、物体の熱容量と比熱について、実験を通して科学的に理解している。		
		(3) 熱伝導、対流、熱放射などのしくみについて、実験などを通して理解している。また、水の状態変化と潜熱の概念について知識を習得している。		
		(4) 仕事とエネルギーと関係、ジュール熱と電力の関係について、物理式を用いながら理解している。		
		(5) さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、関心をもって学習している。		
		(6) 可逆変化と不可逆変化について理解し、熱機関、永久機関の学習を通して、熱はすべて仕事に変えられないことを科学的に理解している。		
		(7) ハイブリッドカーの開発などの省エネルギーの試みや、太陽光や風力、地熱などの代替エネルギーの開発について、関心をもって知識を習得している。		
第 IV 章 地球や宇宙の科学	第 2 節 太陽と地球	<p>・太陽や月などの身近にみられる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について理解する。</p>		
		(1) 生物の生存に不可欠な太陽に興味をもち、太陽系の中心である太陽と、太陽系を構成する天体の概観について理解している。		
		(2) 私たちのすむ地球に関心をもち、地球型惑星と木星型惑星の違い、太陽系外縁天体、小惑星、彗星の特徴について、理解している。		
		(3) 太陽放射と地球放射、地球のエネルギー収支、温室効果について科学的に思考でき、実験結果を通して地球放射のしくみを的確に表現できる。		
		(4) 大気の循環と気候変動の現象の理解を通して、人間生活に恩恵をもたらす太陽について、科学的に理解している。		
		(5) 夜空の星々に関心をもち、星や太陽を観測するときの天球の概念や、太陽やその他の天体の日周運動について、科学的に理解している。		
		(6) 星座や月の動きに興味を抱き、太陽の年周運動や、月の動きと形の変化について、科学的に理解している。		
		(7) 潮汐について関心をもち、潮汐がどのようにしておこるかを科学的に概ね理解している。		
		(8) 暦に関心をもち、太陽の動きから現在も使用されている暦が形成されたことを科学的・論理的に表現できる。		
第 V 章 これからの科学と人間生活	<p>・自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえ、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察する。</p>			
課題の設定と研究の進め方	<p>・具体的な課題の研究・調査を始めるにあたって、課題の設定から研究計画の立案、研究の実施、およびレポートの作成、プレゼンテーションまでの展開を的確に理解している。</p>			
課題研究	<p>身近な科学現象から題材を設定し、研究を進め、発表を行う。</p>			

年間指導計画（書式）

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	2 単位
使用教科書	新編 生物基礎（数研出版）	対象学年 学科・組	2, 3年 農業科 5 組
使用副教材	生物基礎学習ノート（数研出版）		
科目の概要と目標	図や写真にとどまらず、映像や音声など様々なツールを通じて、自然現象や生理現象への理解を深めるとともに、自らの体内で起こっている現象と結びつけて物事を理解し、科学への見識を深める。		
単元	学習内容	到達度目標	
第1章 生物の特性	第1節 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生物にも共通性があることを理解する。 	
第2章 遺伝子とそのはたらき	第1節 遺伝情報とDNA <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝上違法を含む物質—DNA 2. DNAの構造 第2節 遺伝情報の複製と分配 <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞周期とDNA 2. 遺伝情報の複製 3. 遺伝情報の分配 第3節 遺伝情報の発現 <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝情報とタンパク質 2. タンパク質の合成 3. 細胞の分化と遺伝情報 4. 遺伝子とゲノム 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造を理解する。 DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 DNAが複製されるしくみを理解する。 体細胞分裂の課程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。 からだを構成する細胞で遺伝子がどのように発言しているかを理解する。 	
第3章 ヒトの体内環境の維持	第1節 体内での遺伝情報と調節 <ol style="list-style-type: none"> 1. 体内での遺伝情報 2. 神経系による情報の伝達と調節 3. 内分泌系による情報の伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1. 体内環境の維持 2. 血統濃度の調節のしくみ 3. 血液の循環を維持するしくみ 第3節 免疫のはたらき <ol style="list-style-type: none"> 1. からだを守るしくみ 2. 自然免疫 3. 適応免疫 4. 免疫と健康 	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系がからだの状態を調節するしくみを理解する。 自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。 免疫と、病気や治療法との関係について理解する。 	
第4章 生物の多様性と生態系	第1節 植生と遷移 <ol style="list-style-type: none"> 1. 植生とその成りたち 2. 植生の遷移 3. 植生の再生 第2節 植生の分布とバイオーム <ol style="list-style-type: none"> 1. 植生とバイオーム 2. 世界のバイオーム 3. 日本のバイオーム 第3節 生態系の生物の多様性 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生態系の成りたち 2. 生態系における種多様性 3. 生態系における生物同士のつながり 第4節 生態系のバランスと保全 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生態系のバランス 2. 人間生活と生態系 3. 生態系の保全 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 日本に分布するバイオームについて理解する。 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系の中で、多様な生物がどのように関係して存在しているのかを理解する。 生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。 人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。 	

年間指導計画

教科・科目	芸術・音楽 I		単位数	単位
使用教科書	高校生音楽1 (教育芸術社)		対象学年 学科・組	1年 農業科5組
使用副教材				
科目の概要と目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
単元	学習内容	到達度目標		
(表現・歌唱) ・「入善高等学校校歌」 ・「翼をください」 ・「歌の翼に」 ・「この道」 ・合唱 ・「カーロ ミオ ベン」 ・「野ばら」 他	・歌唱の基本を学ぶ。 ・声を出すことに慣れる。 ・発声の図を用いつつ、力みのない歌唱法を身に付ける	・歌うときの基本的な姿勢、呼吸、声の響かせ方を身に付ける。 ・曲にふさわしい発声で表現を工夫して歌う。 ・歌詞の内容や曲の背景を理解し、詩情に合った歌唱表現を工夫する。		
(表現・器楽) ・リズムアンサンブル ・『クラッピングカルテット第1番』 ・様々な楽器を使ったアンサンブル 他	・基本的な音価の数え方を学ぶ。 ・反復、変化、対照などの手法を活用して、リズムパターンを即興で変化させて演奏する。 ・色々な楽器でのアンサンブルを実践する。	・リズム奏に用いる楽器の組み合わせを工夫して豊かな音色で表現する。 ・曲にふさわしい奏法や身体の使い方を身に付ける。 ・他者との調和を意識して、その表現を工夫する。		
(表現・創作) ・創作 ・《きらきら星》の旋律で音楽をつくろう 他	・既存の作品の断片を用い、創作に触れる。 ・ニュアンスに合わせた音楽表現をする。	・自分のイメージに合わせて音楽をつくる。 ・創作表現に関わる知識や技能を身に付け、表現を創意工夫する。		
(鑑賞) ・ベートーヴェン：交響曲第9番 第4楽章 ・ガムラン ランチャラン マニャルセウ ・日本の伝統的な音楽 ・ミュージカル ・オペラ 他	・ワークシートを用いつつ、様々な音楽作品への意見を整理する。	・音楽のよさや美しさを味わって聴き、曲に対する評価とその根拠について考える。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 ・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について学ぶ。 ・音楽に込められた作曲者の思いについて話し合い、考えを深める。		

年間指導計画

教科・科目	芸術・美術 I	単位数	2 単位
使用教科書	美術1 (光村図書)	対象学年 学科・組	1 年 農業科・5 組
使用副教材			
科目の概要と目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		
単元	学習内容	到達度目標	
【鑑賞(鑑賞中心)】 美術 I オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 美術の意義について考える。 1年間の題材について知る。 「美術の体操」に取り組む(4コマ漫画作成・鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> これからの社会に求められる想像力と芸術表現の関わりについて、理解を深めている。 自分の日常的な生活などから主題を生成し、4コマ漫画の構成や造形について考え、創造的な表現の構想を練っている。 「美術の体操」などの発想を引き出す活動に主体的に取り組んでいる。 	
【鑑賞(表現中心)】 教科書作品模写	<ul style="list-style-type: none"> 教科書作品ベスト5を決める。 教科書作品を模写する。 模写作品を鑑賞し合い、作者の意図や心情について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書作品の構図や配色、技法などを観察し、自分の技術を駆使し正確に再現しようとしている。 模写を通して作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の工夫などについて見方や感じ方を深め、自分の言葉で伝えようとしている。 教科書作品のよさや面白さを捉えて再現する造形活動に、粘り強く取り組んでいる。 	
【鑑賞(鑑賞中心)】 日本人現代アート作家鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 日本人現代アート作家の経歴と作品を知る。 作家の関連動画を視聴する。 作家についての自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代アート作品の造形的なよさや面白さを感じ取り、社会や美術界の動向と作家の表現意図との関係性、創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 現代アート作品から作家の表現意図を考える鑑賞の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【絵画・彫刻(表現中心)】 エッチング(銅版画) 想像した世界を描く	<ul style="list-style-type: none"> 夢や現実にはない不思議を想像し、主題を生成する。 主題をもとに、形や線・点、構図などの構想を練る。 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 夢や想像、自分を見つめて感じ取ったことなどから主題を生成し、形や構図、イメージを組み合わせるなどの創造的な表現の構想を練っている。 主題に応じて形や線・点、構図などの表現を工夫し、創造的に表している。 夢や想像、自分を見つめて感じ取ったことなどをもとにした表現の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【映像メディア(表現中心)】 ピンホールカメラで撮影しよう	<ul style="list-style-type: none"> 様々な写真作品を鑑賞し、主題を持って撮影することについて考える。 ピンホールカメラの特性を踏まえ主題を生成する。 主題をもとに、構図や光などの構想を練り、撮影する。 現像処理を行い、写真(ネガ)作品を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色、光などがもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、様々な主題で撮影された写真作品を、全体のイメージや作風で捉えている。 身近な対象を見つめ、感じ取ったことや考えたことをもとに主題を生成し、ピンホールカメラの特性、光や構図、ポーズなどの視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 身近な対象を見つめ、表情や動き、背景などについて感じたことや考えたことをもとに写真に表現する創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【デザイン(鑑賞中心)】 色彩	<ul style="list-style-type: none"> 「見る」仕組みについて知る。 色の3原色、加法混色・減法混色 錯視・色彩心理 配色について [演習] ①12色相環 ②明度・彩度対比	<ul style="list-style-type: none"> 視覚の原理や色彩心理などが生活に与える影響について理解を深め、それらをもとに色彩の演習に主体的に取り組んでいる。 色の3属性について理解を深め、色相環などの色づくり演習を合理的に進めることができる。 	
【デザイン(表現中心)】 オリジナルCDジャケットデザイン	<ul style="list-style-type: none"> デザインとは何か考える。 好きなアーティストの歌詞や曲調をもとに構図・配色・画材などの構想を練る。 画材や表現方法を工夫して制作する。 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や配色、画材などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、ジャケットデザインを、全体のイメージや作風などで捉え理解している。 好きなアーティストの歌詞や曲調などから主題を生成し、構図や配色、CDジャケットの表・裏面の関係性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 アーティストが曲に込めた想いについて考え、構図や配色、画材を工夫してCDジャケットをデザインする創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【絵画・彫刻(表現中心)】 油彩画で自己を表す	<ul style="list-style-type: none"> 自分を見つめて感じ取ったことから主題を生成する。 主題をもとに構想を練り、油彩画の特性を生かした表現方法を工夫し、制作する。 完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分を見つめて感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、構図・配色、単純化や省略・強調などを考え、創造的な表現の構想を練っている。 表現意図に応じて画材や用具・技法を選択し、その特性を生かすとともに、表現方法を工夫し、主題を追究して創造的に表している。 自分を見つめて感じ取ったことなどをもとにした表現の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【鑑賞(鑑賞中心)】 近隣美術館での企画展鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員から美術館が地域社会に果たす役割や展覧会の主旨を聞き、アートへの視野を広げる。 感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心をもち、作家や作品の見方や感じ方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展作品の造形的なよさや面白さを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 企画展作品から作家の表現意図について考える鑑賞の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	

年間指導計画

教科・科目	芸術・書道 I		単位数	2 単位
使用教科書	書 I (教育図書) 書 I プライマリーブック (教育図書)		対象学年 学科・組	1 年 農業科・5 組
使用副教材				
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法・形式・多様性を理解し、書写能力の向上を図り、伝統に基づいた表現の技能を身につける。 ・伝統・文化を通して書の美を感受し、価値を考え、意図に基づいた表現が工夫できる。 ・主体的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好し、心豊かな生活・社会を創造する態度を養う。 			
単元	学習内容	到達度目標		
○書写から書道への発展	<ul style="list-style-type: none"> ・文房四宝に対する理解 ・基本的な姿勢 ・生活の中の書 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科書写と芸術科書道の違いや目指すところを理解する。 ・用具の使用法、手入れ方法を知り、大切に使えるようになる。 ・筆・鉛筆の持ち方、構え方、姿勢を身につける。 ・書の伝統と文化を感じながら学習し、身の周りの『書』に気付き、「生活の中に生きる書」への関心を高める。 		
○楷書の古典の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> ①鄭義下碑 ②牛橛造像記 ③孔子廟堂碑 ④九成宮醴泉銘 ⑤雁塔聖教序 ⑥顔氏家廟碑 	<ul style="list-style-type: none"> ・書体の変遷について学び、楷書の成立を理解する。 ・古典を臨書し、いろいろな書風があることを知り、表現できるようになる。 ・筆の弾力、毛のねじれ、毛先の開閉などの特性を知り、意図に応じて適切に工夫し表現ができるようになる。 		
○行書の古典の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> ①蘭亭叙 ②争座位稿 ③風信帖 	<ul style="list-style-type: none"> ・点画の連続する行書の特徴を理解する。 ・古典の表現の多様性を感じ取ることができる。 ・筆脈、抑揚、空間の大切さを学び、生かすことができるようになる。 		
○漢字作品の創作	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字一字による創作 ・漢字二字による創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の学習を生かし、個性もプラスして作品を創作できるようになる。 ・学習したことを生活の中に生かし、表現する楽しみを知る。 ・「感情を書で表現する」ための構想を立て、墨の濃淡や潤渴、筆づかいを意図に応じて工夫できる。 ・創作作品を鑑賞し、作者の意図と表現の工夫を感知できる。 		
○仮名の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の基本 ・平仮名单体・いろは歌 ・連綿の方法 ・「高野切」の臨書 ・短歌のちらし書き 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の用具や用語を理解し基本用筆を習得する。 ・平仮名の字源を知り、平仮名や変体仮名を理解する。 ・連綿の基本的法則を知り習得する。 ・単体、連綿を組み合わせ、空間の美しさも考慮した短冊・色紙作品が書けるようになる。 		
○漢字仮名交じり文の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・調和の方法 ・作品の製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字と仮名を調和させる方法を考え、表現できるようになる。 ・書きたい文字や言葉を、感情豊かに表現を工夫した作品が書けるようになる。 		

年間指導計画

教科・科目	家庭・家庭総合	単位数	2単位
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）	対象学年 学科・組	2年 農業科・5組
使用副教材	とやまの高校生ライフプランガイド（富山県教育委員会）		
科目の概要と目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p>		
単元	学習内容	到達度目標	
第1章 生涯を見通す 1人生を展望する 2目標を持って生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第6章 食生活をつくる 1食生活の課題について考える 2食事と栄養・食品 3食生活の選択と安全 4生涯の健康を見通した食事計画 5調理の基礎 6食生活の文化と知恵 7これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい食習慣を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化するを科学的に捉える。 ・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第3章 子どもと共に育つ 1命を育む 2子どもの育つ力を知る 3子どもと関わる 4子どもとの触れ合いから学ぶ 5これからの保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第5章 共に生き、共に支える 1私たちの生活と福祉 2社会保障の考え方 3共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第8章 住生活をつくる 1住生活の変遷と住居の機能 2安全で快適な住生活の計画 3住生活の文化と知恵 4これからの住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第7章 衣生活をつくる 1被服の役割を考える 2被服を入手する 3被服を管理する 4衣生活の文化と知恵 5これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが被服を着用するに至った社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	

年間指導計画

教科・科目	家庭・家庭総合	単位数	2単位
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）	対象学年 学科・組	3年 農業科・5組
使用副教材	とやまの高校生ライフプランガイド（富山県教育委員会）		
科目の概要と目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(2)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>		
単元	学習内容	到達度目標	
第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるような、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することについて課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
2 社会保障の考え方 3 共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 		
第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
5 これからの衣生活		<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について課題を設定し、解決策を構想し根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
5 調理の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
6 食生活の文化と知恵	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
7 これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、広い視野で食生活について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で、契約の重要性について理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるように、消費者保護制度について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう、責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
4 生涯の経済生活を見通す	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう、責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
5 家計をマネジメントする	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
6 これからの経済生活	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 		

教科・科目	外国語・英語コミュニケーション I	使用教科書	VISTA English Communication I
単位数	3	使用副教材	VISTA English Communication I ワークブック
対象学年・学科	1年 農業科・5組		
科目の概要と目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語の運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月、5月	Get Ready! 1~4	「アルファベット」「単語の書き方」「辞書の引き方」「教室での英語の使用」について、イラストなどを参考にして、理解する	「アルファベット」「単語の書き方」「辞書の引き方」「教室での英語の使用」について、イラストなどを参考にして、理解する	◎	○	○
	LESSON 1 Colors of Spring	春についての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 色/春について、意見を交換する。 【言語材料】現在形	・be動詞・一般動詞の現在形に関する事項を理解している。 ・春について、理解して考えを深めることができる。 ・色/春についてやりとりができる。 ・春についての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
中間考査						
5月	LESSON 2 Dick Bruna	ディック・ブルーナさんについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】過去形	・ディック・ブルーナさんについて、理解して考えを深めることができる。 ・キャラクター/本についてやりとりができる。 ・ディック・ブルーナさんについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
6月	LESSON 3 Interesting Sports	おもしろいスポーツについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】進行形	・おもしろいスポーツについて、理解して考えを深めることができる。 ・スポーツ/過去の行動についてやりとりができる。 ・おもしろいスポーツについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
	LESSON 4 Pictograms	ピクトグラムの役割についての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】助動詞、動名詞	・ピクトグラム/ジェスチャーの役割について、理解して考えを深めることができる。 ・ピクトグラム/ジェスチャーの役割についてやりとりができる。 ・ピクトグラム/ジェスチャーの役割についての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
期末考査						
7月	Look and Learn 1 ENJOY COMMUNICATION! 1	いろいろな文型の整理	いろいろな文型に慣れる			
9月	LESSON 5 We Are Part of Nature	岩合光昭さんへのインタビューから、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】現在完了形	・岩合光昭さんへのインタビューについて、理解して考えを深めることができる。 ・エコ/職業/自然/ポスターへの意見についてやりとりしたり、ポスターの提案理由について書いて発表することができる。 ・岩合光昭さんへのインタビューについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
	Look and Learn 2 ENJOY COMMUNICATION! 2	助動詞・動名詞・不定詞	助動詞・動名詞・不定詞を使って、訪れたい場所について発表する	◎	○	○
10月	LESSON 6 Machu Picchu	マチュ・ピチュについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】現在完了形	・マチュ・ピチュについて、理解して考えを深めることができる。 ・マチュ・ピチュについてやりとりができる。 ・マチュ・ピチュについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
中間考査						
	LESSON 7 Artificial Intelligence	AIについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】受け身	・AIについて、理解して考えを深めることができる。 ・AIについてやりとりができる。 ・AIについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
	Look and Learn 3 ENJOY COMMUNICATION! 3	現在完了形・受け身	現在完了形・受け身を使って、住んでいる場所や建物について発表する	◎	○	○
11月	LESSON 8 Is There a Santa Claus?	サンタクロースについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】受け身	・サンタクロースについて、理解して考えを深めることができる。 ・サンタクロースについてやりとりができる。 ・サンタクロースについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
期末考査						
12月	LESSON 9 Kids' Guernica	ゲルニカについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】関係代名詞	・ゲルニカについて、理解して考えを深めることができる。 ・ゲルニカについてやりとりができる。 ・ゲルニカについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
1月	LESSON 9 Kids' Guernica	ゲルニカについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】関係代名詞	・ゲルニカについて、理解して考えを深めることができる。 ・ゲルニカについてやりとりができる。 ・ゲルニカについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
	Look and Learn 4 ENJOY COMMUNICATION! 4	関係代名詞・現在分詞・過去分詞・関係副詞	好きな場所について発表する	◎	○	○
2月	LESSON 10 Ethical Fashion	エシカルファッションについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったり、意見を交換したりする。 【言語材料】比較	・エシカルファッションについて、理解して考えを深めることができる。 ・エシカルファッションについてやりとりができる。 ・エシカルファッションについての概要や要点、必要な情報を、聞き取ることができる。	○	◎	◎
	Look and Learn 5 ENJOY COMMUNICATION! 5	比較・仮定法過去・知覚動詞	面白いと思うことについて発表する	◎	○	○
学年末考査						
3月	The Story of Oshin, a Japanese Cinderella	仮定法過去	ストーリーを楽しみ朗読できるようになる	○	○	◎

年間指導計画（書式）

教科・科目	農業・農業と情報		単位数	2単位
使用教科書	農業と情報（実教出版）		対象学年 学科・組	1年 農業科・5組
使用副教材	全商情報処理検定テキスト3級（実教出版）			
科目の概要と目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1章 私たちの生活と農業の情報化	1 情報社会における私たちの生活 2 情報とメディア 3 情報社会とモラル 4 農業を支える情報	<ul style="list-style-type: none"> データと情報，意思決定の過程と情報社会の発展について理解する。 データと情報，意思決定の過程と情報社会の発展について理解する。 メディアリテラシーを身に付ける必要性を理解する。 情報化社会の光と影について考えるとともに，SNSの使い方や，個人情報の取り扱い，知的財産権の保護，モラルについて考える。 農業の情報化の発展とデータ収集の大切さについて理解する。 		
第2章 社会を支えるコンピュータ	1 コンピュータのしくみ 2 データや情報の表現 3 情報通信ネットワーク 4 インターネットのしくみ 5 情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ハードウェアとソフトウェアの概要をについて理解する。 データや情報の種類とその表現方法について理解する。 情報通信ネットワークのしくみと特徴について理解する。 インターネットの概要と検索方法について理解するとともに，電子メールを適切に利用することができる。 情報社会の脅威と情報管理の重要性について理解する。 		
第3章 コミュニケーションと情報デザイン	1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書の作成と表現 3 データの集計と視覚化 4 データベースシステムとオープンデータ 5 画像・図形処理ソフトウェアの利用 6 プレゼンテーション 7 情報発信 8 問題解決の方法	<ul style="list-style-type: none"> 情報を活用するソフトウェアについて理解する。 文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。 表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。 データベースソフトウェアの特徴と機能を理解し，データを活用することができる。 画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理・動画編集を行うことができる。 プレゼンテーションソフトウェアを利用して基本的なプレゼンテーションを行うことができる。 基本的なHTMLのタグを理解し，簡単なWebページを作成することができる。 問題解決と情報利用の方法，アイデアなどを引き出す思考技術について理解する。 		

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	農業・農業と情報	単位数	1単位
使用教科書 副教材	農業と情報（実教出版） 全商情報処理検定テキスト3級（実教出版）	対象学年 学科・組	2年 農業科・5組

科目の概要 と目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
--------------	---

学習項目・内容 (単元・章・節など)	到達度目標
第1章 私たちの生活と農業の 情報化 1 情報社会における私たちの 生活 2 情報とメディア 3 情報社会とモラル 4 農業を支える情報	<ul style="list-style-type: none"> ・データと情報，意思決定の過程と情報社会の発展について理解する ・メディアリテラシーを身に付ける必要性を理解する。
第2章 社会を支えるコンピ ュータ 1 コンピュータのしくみ 2 データや情報の表現 3 情報通信ネットワーク 4 インターネットのしくみ 5 情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの概要と検索方法について理解するとともに，電子メールを適切に利用することができる。 ・情報社会の脅威と情報管理の重要性について理解する。
第3章 コミュニケーション と情報デザイン 1 情報表現のためのソフト ウェア 2 文書の作成と表現 3 データの集計と視覚化 4 データベースシステムと オープンデータ 5 画像・図形処理ソフトウ ェアの利用 6 プレゼンテーション 7 情報発信 8 問題解決の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。 ・表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを利用して基本的なプレゼンテーションを行うことができる。
第5章 農業情報の分析と活 用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産や経営情報の分 析と活用 3 環境に関する情報の分析 と活用 4 食品や地域資源に関する 情報の分析と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・農業情報の種類と内容について理解し，収集したデータを分析し，活用する。 ・農業生産や農業経営，出荷・販売に関する情報について理解し，情報を活用する方法を考える。 ・食品の安全性や地域資源を守るための情報活用技術について理解する。

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	農業・農業と情報	単位数	2単位
使用教科書 副教材	農業と情報 (実教出版)	対象学年 学科・組	3年 農業科・5組

科目の概要 と目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、農業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。
--------------	---

学習項目・内容 (単元・章・節など)	到達度目標
第3章 コミュニケーションと情報デザイン 1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書の作成と表現 3 データの集計と視覚化 4 データベースシステムとオープンデータ 5 画像・図形処理ソフトウェアの利用 6 プレゼンテーション 7 情報発信 8 問題解決の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースソフトウェアの特徴と機能を理解し、データを活用することができる。 ・画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理・動画編集を行うことができる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを利用して基本的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・基本的なHTMLのタグを理解し、簡単なWebページを作成することができる。 ・問題解決と情報利用の方法、アイデアなどを引き出す思考技術について理解する。
第4章 スマート農業への展望 1 スマート農業のめざす将来 2 システム開発と設計 3 プログラムの設計 4 計測と制御 5 リモートセンシングとGIS 6 人工知能	<ul style="list-style-type: none"> ・農業情報の種類と内容について理解し、収集したデータを分析し、活用する。 ・システム開発・設計の流れを理解し、モデル化について考えることができる。 ・プログラム設計の流れやアルゴリズムを理解し、フローチャートを使って表現することができる。 ・計測と制御のメカニズムを理解し、環境制御温室のフィードバック制御について説明できる。 ・リモートセンシングと地理情報システムの概要について理解し、取得した情報を活用できる。 ・人工知能の概要や農業における利用例及びロボット農機について理解する。
第5章 農業情報の分析と活用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産や経営情報の分析と活用 3 環境に関する情報の分析と活用 4 食品や地域資源に関する情報の分析と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・農業情報の種類と内容について理解し、収集したデータを分析し、活用する。 ・農業生産や農業経営、出荷・販売に関する情報について理解し、情報を活用する方法を考える。 ・環境情報の種類と情報内容およびその活用技術について理解する。 ・食品の安全性や地域資源を守るための情報活用技術について理解する。
第6章 農業学習と情報活用 1 農業学習とプロジェクト学習 2 プロジェクト発表と情報発信 3 データの視覚化と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・農業学習の特徴とプロジェクトの四段階について理解する。 ・プロジェクトをまとめ、情報通信ネットワークを活用して情報発信する。 ・データの特徴を理解し、収集したデータを統計処理することができる。

教科・科目	農業・農業と環境		単位数	4 単位
使用教科書	農業と環境（実教出版）		対象学年 学科・組	1年 農業科・5組
使用副教材				
科目の概要と目標	農業学習の特質である農業生物の育成についての体験的、探究的な学習を通して、農業に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業及び農業学習についての興味・関心を高める。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1章 農業と環境を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・農業、環境学習とは何か ・農業と環境の学び方 ・学校農業クラブ活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業学習の特質を理解する。 ・プロジェクト学習を農業学習に生かすことができるようになる。 ・学校農業クラブの目的と内容を理解する。 		
第2章 私たちの暮らしと農業農村	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と植物・動物とのかわり・農業と食料供給 ・農業と農村の役割 ・これからの社会と農業・農村 	<ul style="list-style-type: none"> ・農耕地の生態系の特徴と役割について理解する。 ・作物のからだをつくる養分と役割について理解する。 ・世界における農業の移り変わりを学ぶ。 ・わが国の農業技術とそれを支える自然環境を理解する。 ・食品産業の現状を学ぶ。 ・農業が環境保全に果たす役割を理解する。 		
第3章 栽培と飼育の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の特性と栽培のしくみ ・作物をとりまく環境とその管理 ・家畜の特性と飼育 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物栽培と環境との関係について理解し、広い視野で栽培環境を学ぶ。 ・気象・土壌・生物環境について理解する。 ・家畜に関する基礎知識を身につけ、家畜の飼育と環境の関係を結びつけて理解する。 		
第4章 栽培と飼育のプロ ジェクト	・イネの栽培と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・イネの生育過程を理解する。 ・本田の準備から管理作業ができるようになる。 ・病気・害虫の防除の基本的な考え方について理解する。 ・収穫適期が判定できるようになる。 		
	・大豆の栽培と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイズの生育過程を理解する。 ・畑の準備から管理作業ができるようになる。 ・収穫適期が判定できるようになる。 		
	・トウモロコシの栽培と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・トウモロコシの生育過程を理解する。 ・畑の準備及び種まきの方法を理解する。 ・たねまき後の管理作業ができるようになる。 ・病気・害虫の防除の基本的な考え方について理解する。 ・収穫適期が判定できるようになる。 		
	・ダイコンの栽培と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイコンの生育過程を理解する。 ・畑の準備及び種まきの方法を理解する。 ・たねまき後の管理作業ができるようになる。 ・収穫適期が判定できるようになる。 		

教科・科目	農業・課題研究	単位数	2単位
使用教科書 副教材		対象学年 学科・組	2年 農業科・5組

科目の概要 と目標	農業に関する課題を自ら設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
--------------	---

学習項目・内容 (単元・章・節など)	到達度目標
第1章 課題の設定と計画 ・全体ガイダンス ・研究課題の設定 ・研究方法と年間計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の学習法について理解する。 ・これまでの農業学習や過去の先輩の記録、地域農業の課題を調査するなどして、自らが興味関心のある研究テーマを決定することができるようになる。 ・自分の研究テーマについて、具体的な内容や方法、期間、場所など考え、計画を立案する。
第2章 研究の実施 ・課題研究の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいて研究や実験に取り組むことができるようになる。 ・研究で調査したことなどを記録して保管することができるようになる。
第3章 課題研究のまとめと自己評価 ・まとめ ・課題研究中間報告書の作成 ・自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んできた活動記録を基に研究結果をまとめる能力を身につける。 ・表計算ソフトを用いて数値等を処理し、ワープロソフトを用いて中間報告書を作成し、提出することができるようになる。 ・取り組みの内容と結果から、研究についての自己評価を行う能力と態度を身につける。
第4章 学習成果の発表 ・課題研究要録集の作成 ・次年度への計画	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告書を基に、1年間を通して取り組んできた研究結果を表計算ソフトやワープロソフトを用いてまとめ、研究報告書を作成する。プレゼンテーションソフトを用いて研究報告をすることができるようになる。 ・1年間の取り組みによる結果を考察した評価や反省を基に、3年次で取り組む課題研究計画書を作成する。

年間指導計画（書式）

教科・科目	農業・課題研究		単位数	2単位
使用教科書			対象学年 学科・組	3学年 農業科・5組
使用副教材				
科目の概要と目標	農業に関する課題を自ら設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1章 課題の設定と計画	<ul style="list-style-type: none"> 全体ガイダンス 研究方法と年間計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の学習法について理解する。 2年次の年度末に作成した課題研究計画書を基にして、1年間の具体的な内容や方法、期間、場所など考え、計画を立案する。 		
第2章 研究の実施	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいて研究や実験に取り組むことができるようになる。 研究で調査したことなどを記録して保管することができるようになる。 		
第3章 課題研究のまとめと自己評価	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 課題研究中間報告書の作成 自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組んできた活動記録を基に研究結果をまとめる能力を身につける。 表計算ソフトを用いて数値等を処理し、ワープロソフトを用いて中間報告書を作成し、提出することができるようになる。 取り組みの内容と結果から、研究についての自己評価を行う能力と態度を身につける。 		
第4章 学習成果の発表	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究要録集の作成 課題研究発表会への準備 課題研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告書を基に、1年間を通して取り組んできた研究結果を表計算ソフトやワープロソフトを用いてまとめ、要録集原稿を作成する。 自分たちの研究結果をまとめ、プレゼンテーションソフトを用いて研究報告をすることができるようになる。 研究結果をわかりやすく発表する。 		